

第5学年 国語科学習指導案

日 時 令和2年11月12日 4校時
児 童 5年1組 男子7名 女子7名 計14名
指 導 者 千葉 郁男

1. 単元名 椋鳩十の作品の世界を知ろう～物語をくらべながら、物語のみりよくをまとめよう～

教材名 大造じいさんとガン (8時間)

2. 教材について

「大造じいさんとガン」は、ガンの頭領である「残雪」と、狩人「大造じいさん」との間に繰り広げられる戦いの物語である。この物語の中で、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かす大造じいさんの人間味あふれる姿が生き生きと描かれている。さらに、場面の転換や物語の山場部分などに、大造じいさんの行動などの細かい描写が見られ、秋の空や日の光を中心とした自然描写、戦う残雪の行動描写の巧みさなど、児童を物語の世界に引き込む優れた作品となっている。また、作品全体に優れた描写がちりばめられているので、心情を読み取る際に児童は想像を膨らませやすいと言える。そのため、この物語の叙述から心情を児童に想像させ、その想像を基に、他の物語と比較しながらこの物語の魅力についてまとめることに適した教材であると考えられる。

3. 児童について

児童は、これまでに4年生で、「ごんぎつね」において場面の移り変わりに即して読む学習をしている。また、「プラタナスの木」では、場面の移り変わりや出来事を押さえ、自分の体験と比べて感想をもつ学習を行っている。さらに、5年生「たずねびと」では、物語を具体的に想像し、この物語に対する自分の考えをまとめ広げる学習をしてきた。その中で登場人物の言動から主人公の気持ちの変化を読み取り、自分の経験をふまえながら自分の考えを広げ、表現する力をつけてきた。一方で叙述から登場人物の心情を読み取ったり、そこに込められている人物の思いや自分の考えを豊かに表現したりすることに関しては課題がみられる。本単元の学習を通して、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、叙述を根拠にして読む意識をもち、場面の移り変わりや人物の言動を結び付けながら、物語から受け取ったことについて多様な感想をもつ学習を行いたい。

4. 指導にあたって

本単元では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、他の物語と比較しながらこの物語の魅力について自分の考えをまとめたりすることを重点として指導する。そのために、残雪の行動や大造じいさんの心情の分かる叙述に着目しながら、山場について考えたり、残雪の行動描写の優れた点について考えたり、残雪の行動に対しての大造じいさんの心情を考えたり、情景から大造じいさんの心情を考えたりする学習を行う。また、単元の始まりと終わりに、物語を読んだ魅力を他の物語と比較しながら書く活動を言語活動に位置付け、児童が自分の学びと成長を感じられるようにしたい。さらに、関連読書で椋鳩十作品を読み、椋鳩十作品に触れ、椋鳩十の作品のよさにも触れさせるようにしたい。

児童が単元を通して資質・能力を身に付けていくために、下記の点を工夫して指導にあたりたい。

単元の導入においては、これまで物語を読んで感想を書いたことを想起させ、物語を読んで、山場、情景、主人公の心情、動物の行動描写などの観点から、他の物語と比較してこの物語の魅力についてまとめることを意識づける。

構造と内容の把握では、物語の山場を読み取ることで全体を俯瞰し、大まかな内容を捉える。

精査・解釈では、残雪の行動描写の優れた点について考えたり、描写から主人公の心情を考えたり、情景描写から主人公の心情を考えたりすることで、叙述をもとに解釈することができるようにしていく。

考えの形成では、構造と内容の把握と精査・解釈で考えてきたことを基にして、他の物語と比較しながらこの物語の魅力について自分の考えをもたせる。その際に、主人公の行動や心情の変化、情景、山場などを根拠とし、比較する物語を限定して多様な考えを交流できるようにする。さらにその交流を基に、自分の考えた作品の魅力についてまとめさせる。

共有・振り返りでは、友達とまとめについて交流する中で、自分のまとめの考えや理由の違いに気付かせ、関連読書や友達との交流により、自分の考えが深まったり広がったりしたことに気付くことができるようにする。

また、この単元の学習と並行して、関連読書で椋鳩十作品を読むことに取り組む。椋鳩十作品全般を読むだけでなく、「かたあしの母すずめ」、「母ぐま子ぐま」、「ひとりぼっちのつる」は必読書として、全員に読ませる。そして、考えの形成の段階で、その必読書を基に、「大造じいさんとガン」との比較をして、この作品の魅力をまとめさせたい。

5. 本時の指導（6・7／8）

(1) 本時の目標

他の物語と比較しながら、観点に沿って物語の魅力をまとめることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	学習内容	指導上の留意点と評価
つかむ 5	1. 課題をつかむ。 「大造じいさんとガン」のみ力をまとめよう。 2. 学習を見通す。	○ 「大造じいさんとガン」の魅力を一言で表し、その理由を考えること。	・ 前時までの学習を確認し、学習の見通しを持たせる。 ・ 他の物語と比較しながら、人物の行動や主人公の心情の変化、情景を根拠にして考えるようにさせる。
考える 40	3. 課題を解決する。 (1) 魅力を表す一文を考える。 【個人】 ・ ノートに一文を書く。 ・ 一文の根拠と理由を考える。 【グループ】 ・ グループで交流する。 ・ 友達との共通点や相違点に気付く。	○ 作品の魅力について根拠と理由を明らかにして、自分の考えを話すこと。 【観点】 ○ 根拠(主人公の心情の変化、人物の行動や会話文、情景、山場)と理由(なぜそう言えるのか)を考えること。 ○ 比較する物語が同じ者同士でグループを作る。 ○ お互いの一文を認め合い、読みの世界を広げること。 ○ 友達の考えとの共通点や類似点、相違点に気付きながら話し合うこと。	・ 「大造じいさんとガン」を読んで、魅力と思ったことを一文で表すとしたら、どんな文が合うか考えさせる。 ・ 根拠(主人公の心情の変化、人物の行動や会話文、情景)と理由(なぜそう言えるのか)述べさせる。 ・ 同じ物語で比較することにより話し合いの観点を明確にして、交流させる。 ・ 板書で、作品から受け取ったことを表した一文の理由が繋がっていることが分かるように整理する。
考える 35	(2) 考えをまとめる。 ・ 話し合ったことも自分の考えに入れながら自分の考えをまとめる。 まとめ (例) 「大造じいさんとガン」などの椋鳩十作品の魅力は人間と動物のつながりの難しさを表していることです。「大造じいさんとガン」では、大造じいさんにとって残雪は自分の仕事を邪魔するガンでしたが、戦い続けているうちに、残雪の知恵や行動に感心しながらも何としても捕まえないという気持ちが強くなっていきます。最後はおとりのガンを自分の命を捨ててまで助けた姿を見て感動します。「母ぐま子ぐま」では、熊を生け捕りにしようとする人間に母熊が命がけで子熊を守り、人間をこらしめていました。「大造じいさんとガン」では大造じいさんと残雪に友情みたいながりができました。でも「母ぐま子ぐま」では自然の中では動物と人間は敵であることが書かれていました。同じ動物と人間なんだけど、自然の中では、人間と動物の気持ちがつながるときもあれば、絶対に無理な時もあるんだと思いました。人間と動物の関係は難しいです。(400字程度)		・ 原稿用紙を使い、400字程度に自分の考えをまとめさせる。 評価規準 主人公の心情の変化、登場人物の行動や会話、情景、山場等、物語を読んで想像したことに基づいて、他の物語と比較しながら理由を考え、魅力をまとめている。(記述・発言)
振り返る 10	4. 振り返る。 ・ 本時の学習の振り返りを行う。	○ 友だちの考えで、自分の考えに取り入れたことについて振り返ること。	・ この時間を振り返り、学習したことを実感できるようにさせる。

課題

「大造じいさんとガン」のみ力をまとめよう。

見通し

- ①み力を一言で書く。(二人)
- ②理由を書く。(一人)
- ③み力について交流する。(グループ)
- ④み力についてまとめる。(二人)

自分の考え

- ①一言
- ②理由

○読み取りの視点から
物語の作り(クライマックス)
残雪の書き方(かしこい・仲間思い)
大造じいさんの心情の変化(てきから英雄へ)
大造じいさんの心情(堂々と戦おう)

○伝えたいことから
残雪と大造じいさんの心の通じ合い

○他の作品と比べて
母ぐま子ぐま
ひとりぼっちのつる
かたあしの母すずめ

伝え合い

- ③交流
- み力について
- 他の作品と比べて